



石田幹夫

— 合同労組とは、そしてその一般的特性 —

合同労組とは、企業内に組織化された労働組合と違って、企業の枠を超え主として中小規模の企業の労働者が加入するという方式で組織化された労働組合である。

そして全国一般などの一般労組、さらに建設・運輸など職名を付けた労組、また地域名などを冠して主として地域を中心に活動する合同労組がある。

この地域名を冠した合同労組を仮に「名古屋合同労組」と呼ぶことにする。

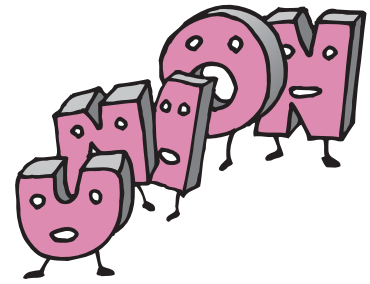
名古屋合同労組は活動範囲を原則として、名古屋市一帯をテリトリーとしているが、それ程地域

にこだわらない。

加入する者は、正規労働者のみでなく、臨時・期間雇用者・パート・派遣労働者さらに外国人労働者など、まさにさまざまである。時にはお寺に雇用されていると称する僧侶の加入もある。

男性・女性ともどもで、合同労組加入者の間には全く交流はなく、組合員がお互いに顔を合わせることもなく—自分自身の問題、他人は他人の問題—という世界である。

加入労働者は、自分の抱える解雇、雇止め、賃金、労災補償などの問題解決のみを目的として加入する一過性のもので、合同労組はいわば「駆け込み寺」的な存在でもある。



それだけに合同労組としても「駆け込み寺」の誇示のためには、解雇・賃金などの一過性の労働紛争の解決に極度というまでに力を注ぐ。

団体交渉などにおいて、この「誇示」が強面の顔、声となることも多い。

— 合同労組の増加 —

平成20年秋、アメリカのリーマンブラザーズの破綻による世界同時不況は、わが国経済はもとより雇用環境にも大きな影響を与え「採用内定取消し」「派遣切り」「雇い止め」など深刻な現象を生み、特に年末には寒さのなかでのテント村・焚

出しなど悲惨な現場がテレビで放映された。

この機に合同労組の誕生は一気に加速し、それにインターネットの普及によって合同労組の存在を知り、これによって新たな加入者が増加しつつあると思われる。

愛知県下では、平成20年2月現在で21の合同労組の存在が確認されていると聞く。

— 異色の合同労組「キャバクラユニオン」の結成 —

キャバクラで働く女性への給与未払い、不当な罰金が深刻化しているとして、東京のキャバクラに勤務していた女性約10名が平成21年12月22日待遇改善を求める労働組合「キャバクラユニオン」を結成した。

このユニオンは、東京の個人加盟労働組合「フリーター全般労組」の分会として発足した。

発足に際して分会長は「以前勤めていた店は罰

金ありと称して賃金の一部を支払ってくれず、男性店長から悪質なセクハラを受けていた」と自分の体験を訴えている。

この「キャバクラユニオン」は早々と12月27日には賃金未払い・罰金などの相談を受ける「キャバクラホットライン」を設けている。

この動きを受けて、店から理不尽な罰金などに悩むキャバクラ勤めの女性を助けようと、平成22年名古屋市内に拠点を置く合同労組が専門の相談スタッフを配置し、24時間態勢で電話やメールで相談に応じ、場合によっては店側に対し団体交渉の要求書を出し、団体交渉の場において解決を図る活動を行っている。

相談は多く寄せられ、合同労組が交渉に乗り出し、大半は解決したとも聞く。

タイトルル・浅井健史